

CHECK 志賀葵・志賀紅音 姉妹 インタビュー



志賀 紅音(しが・あかね)選手

2001年3月3日、帯広市生まれ。姉と同じく稻田小、帯南町中、帯三条高を経て現在は道文教大4年生(3月卒業見込)。4月より(株)デンソーホールディングス入社。平昌五輪では日本代表の最終合宿まで残ったがメンバーには選ばれなかった。2019年1月に帯広で行われた女子U18世界選手権で日本代表の主将を務めた。五輪は初出場。ポジションは4年ほど前にディフェンスからフォワードに。身長165cm。

★アイスホッケーを始めたきっかけは?

(葵)稲田小学校のアイスホッケー少年団を家族で見に行ったら、知り合いが入っていて、その場で体験したら面白くて、すぐにハマってやり始めました。稻田小のアイスホッケーチームは女の子も結構いたので、すんなり入っていました。でも小学校の頃は朝から晩まで練習三昧だったので、辞めたくないな~と思ったこともあります。(笑)

★稲田小学校在校中はどんな生徒でしたか?

(葵)普通に遊んでホッケーやって、友達も沢山いて楽しかったですし、普通の生徒でした(笑)

★給食で一番好きなメニューは何ですか?

(2人揃って)肉じゃがです!!

★稻田小の自慢できるところや好きだったところは何ですか?

(葵)当時は、全校生徒がものすごく多く900人くらいいて、1学年5クラスくらいあって、友達が沢山できることや、運動会のクラス対抗リレーがすごく盛り上がっていたのが印象的です!(紅音)他の学校は2クラスで紅白戦とかですが、5クラスもあったのでクラス対抗戦が白熱していました!!(葵)徒競走は生徒が多い分、親も多いので、目の前を走るのがすごく緊張しました(汗)

志賀 葵(しが・あおい)選手

1999年7月4日、帯広市生まれ。稻田小、帯南町中、帯三条高を経て現在は道文教大4年生(3月卒業見込)。4月より(株)デンソーホールディングス入社。平昌五輪では日本代表の最終合宿まで残ったがメンバーには選ばれなかった。2018年平昌五輪で当時唯一の高校生として日本代表に選ばれた。ポジションはディフェンス。身長は165cm。

★普段やお休みの日はどう過ごしていますか?

(葵)普段は、それぞれ会社や大学に行って、夜にホッケーの練習をしています。お休みの日はドライブで道の駅巡りで釧路や稚内へ行ったり、チームのメンバーとたこ焼きパーティーをしたりしています。

★帯広に帰った時は必ずどこに行きますか?

(葵)焼肉屋さんとお寿司屋さん!!お寿司は必ず『なごやか亭』に行きます!(紅音)ご飯を食べに帯広に帰るみたいな(笑)まずご飯の予定を決めてから帰る!

★夢を叶えるために努力したことは何ですか?

(葵)自分が納得できるまで練習しました。1日が終わる時にアレをやっておけばよかったとか、試合で負けた後とかも、後悔しないように、試合の舞台に立った時に自信を持ってスタートできるように準備しようと日々から思って考えてやっています。

(紅音)人よりも練習するのは小さい頃からやってきました。小さい頃は自分の意思よりは親にやるように言われてやっていた感じですが、それが今となってはその頃にやっておいてよかったです。今も他の人よりも練習量もホッケーの事も日常的に考えて生活していて、それが良い結果に繋がっていると思います。

★今まで一番苦しかったことや、挫折しそうになったことはありますか?

(葵)代表を目指していく時に、メンバーを外れた時は過去に経験したことがあったのですが、ずっと妹と2人で小さい時からやってきていたので、妹が頑張っているから頑張ろうかなと励みになり、頑張るきっかけになりました。

(紅音)そんなに辞めたいとかは思った事がなく、一回オリンピックの代表メンバーを外れた時もその時は落ち込んだのですが、すぐに次の目標ややらなきゃいけないことが明確だったので、次頑張るしかないな~という感じで、挫折という挫折はないです。

★オリンピック出場の次の夢は何ですか?

次のオリンピックでメダルを取ることです!今の女子ホッケーは、アメリカ・カナダがズバ抜けて強いので、どこのチームもまずは3位を狙っているというか、そのひと枠をみんなで争っている状況なので、日本もまずは3位!!というのが目標です!

★稻田小の後輩たちもそれぞれ夢を持って頑張っているので、是非エールをお願いします。

(紅音)後先を考えずに今やりたい事、今できる事を一生懸命やれば、その先の夢に繋がっていくので、深く考えずにやりたい事をやって頑張ってほしいと思います。

(葵)学生のうちに好きなことを見つけてそれに向かって頑張ってほしいです。

社会人になった今、学生の頃がすごく楽しかったので、学校生活も楽しんで欲しいですし、勉強もスポーツも自分の好きなことを見つけて頑張って欲しいと思います。

★最後にご両親に感謝している事はありますか?

(紅音)小さい頃から、私たちがやりたいと言ったことには文句を言わず、送り迎えをしてくれたり、アイスホッケーは防具費が凄くかかるが買ってくれたり、アイスホッケーがしやすい環境と一緒に熱心に作ってくれたり、サポートをしてくれて、当時から今でもとても助かっていて、ありがとうございます。

(葵)小学生の時、外のリンクを比較的自由に使えたので、夜チーム練習のあと、一旦家に帰って夜ご飯を食べた後も父と3人でリンクに行って、車のライトの灯りだけで練習をしたり、朝から晩まで練習に付き合ってくれたり、試合を欠かさず観に来てビデオを撮ってくれたり、熱心にサポートしてくれるので、いつか結果で、オリンピックでメダルを取ったら喜んでくれると思うので、頑張りたいと思います。

志賀葵さん、志賀紅音さん、大変お忙しいところ、貴重なお話を素敵なお話しを聴かせていただき、ありがとうございました。

今回、将来の夢についての特集ページ作ろうと思ったのは、昨年の広報誌の校長先生との対談の中でのお話がきっかけでした。校長先生が稻田小学校を「子供たちが母校を自慢できる学校にしていきたい」というビジョンをお聴きして、自慢ができるよう、将来の夢に対して子供たちがもっと自信を持って発信できるような学校づくりのお手伝いができればとの想いから、この特集ページを作ることにしました。

このページやこの広報誌を通して、ご家族でお子さんの将来の夢やご家族の皆さんの夢や自慢などを伝え合えるきっかけになればと思います。

今回のインタビューを実現に導いてくださった同級生の富谷先生にも心から感謝しています。本当にありがとうございました。

DREAMS COME TRUE

~みんなの未来予想図~

各学年の将来の夢アンケート☆

1年生

- 1位 スポーツ選手
- 2位 ケーキ屋さん
- 3位 警察官
- 4位 看護師／先生

2年生

- 1位 スポーツ選手
- 2位 医療従事者／ケーキ屋
- 4位 アイスクリーム屋
- 5位 警察官

3年生

- 1位 スポーツ選手
- 2位 調理に関わる仕事
- 3位 先生
- 4位 デザイナー
- 5位 看護師

4年生

- 1位 スポーツ選手
- 2位 医療従事者
- 3位 調理に関わる仕事
- 4位 Youtuber／建設系

5年生

- 1位 スポーツ選手
- 2位 医療従事者
- 3位 動物関連の仕事
- 4位 美容師／絵を描く仕事

6年生

- 1位 スポーツ選手
- 2位 医療従事者
- 3位 Youtuber
- 4位 美容師
- 5位 保育士

1990
しまべ

パパ・ママ達の子どもの頃ランキング

- 1位 サッカー選手／ケーキ屋
- 2位 学者／花屋
- 3位 宇宙飛行士／CA

おびひろ市民学知ってる！？

おびひろ市民学とは

「おびひろ市民学」は、ふるさとの自然環境や歴史、文化、産業、地域住民とのかかわりを通して、「ふるさと帯広」に対する誇りと愛着を育み、地域社会の一員として、よりよい地域づくりに関わる子どもを育てることを目的として令和2年度より全小中学校でスタートしました。「おびひろ市民学」における選択単位である「地域の食を知ろう」・「私たちの食と農業を考えよう」では食育推進センターが授業を行っています。

稻田小では、この講座が始まる前から、出前授業として取り組んでいましたが、より稻田小の特色を最大限出す内容を選択して取り組んでいます。

1年生「昔あそび」



帯広市の出前講座グループの竹田さんと池田さんに、竹わりとおはじきの遊び方を教えていただきました。お二人は、出前授業が始まった2020年当初から、毎年稻田小学校に教えに来てくれています。

子どもたちは、「初めは難しかったけれど、やっていくうちに段々コツを掴めて、楽しくなっていった！おはじき5個も乗せられたよー！まだやりたかったな～」と言っていました。

竹田さんは「今は、昔のあそびに触れる事が少ないので、こんな楽しい遊びがあるということを沢山の子どもたちに知ってほしい」池田さんは「竹やおはじきが無くても、竹の代わりには割り箸で、おはじきの代わりにはペットボトルのフタで作ることもできるので、是非おうちの人と一緒にやってみてね」とおっしゃっていました。現代人は、スマートフォンやパソコン、ゲームなどで指先を使う事はあっても、手首を返したり戻したりする遊びはなかなか無いので、これは遊びながら良い運動になりそう！！と思った取材班でした。



4年生「アイヌ文化を知ろう」



「みなさん、イショロレー！（こんにちは）」4年生は、帯広力ムイトウウポポ保存会さんにお越しいただき、アイヌの挨拶、ムックリという竹笛の演奏、4つの踊りを教えていただきました。アイヌ語の中でも有名な「こんにちは」の挨拶といえば、「イランカララブテ」ですが、地域によって挨拶の言い方はさまざまです。帯広では「イショロレー」という言葉を多く使います。

子どもたちから「腰が痛くて大変だったけど楽しかったー！」との声が多く、バッタキウポポ（バッタの踊り）は、実際に今から100年以上前、この北海道十勝地方に大量のバッタが異常発生して、作物が大変な被害にあったそうです。その様子を後世に残そうと、このバッタキウポポが作られました。同保存会の酒井奈々子会長は、歌や踊りを通してアイヌ文化に触れて、知ってほしいとおっしゃっていました。

保存会の皆さんいやいライケレ（ありがとうございました）。



5年生「北海道ホテルシェフによる食育授業」



北海道ホテル総料理長 羽山正彦氏による「シェフに学ぼう！稻田っ子大豆料理講習会」が行われました。生産量日本一を誇る十勝産の大豆とじやがいもを使ったピザ仕立ての作り方を教えていただきました。

羽山氏も初めて料理を作ったのは5年生の時で、それを美味しいと言つてもらえたことが嬉しくて、料理の楽しさを知り、料理人になったそうです。それから料理一筋43年！

「十勝は野菜・肉・魚・乳製品と食材の宝庫と言われています。これだけ身近に美味しい栄養があるものがたくさんあるので、食材や料理に興味を持ってください。料理は基本を覚えると応用が利くので、是非この機会に料理に興味を持って、色々な料理に挑戦してみてほしい。そして、この中からいつか北海道ホテルの総料理長になる人がいたら嬉しいです！」とおっしゃっていました。

